

【やまゆ連・手作りカフェー】

～ 里芋パピルス作り ～

11月2日 10:00～12:00 平和台集会所

里芋の美味しい季節になりました。今回は、その里芋の茎を使った紙（シート）作りに挑戦です。

古代エジプトのパピルスは、ナイル河畔に生えていたカミガヤツリの茎が材料ですが、里芋の茎でもできるでしょうか？ 先生役のOさんは、真光寺川に生えているシュロガヤツリと里芋の茎を用意してくれました。

説明の後、各自持参したピーラー（皮むき器）で、茎を薄切りします。それを、布の上に縦に数本並べ、次は横に重ねます。薄緑のシート状に並べたら、布をかぶせて、めん棒で力を入れて、ごりごり繊維を潰していきます。繊維を潰すことで、重なり合った薄切りの茎がくっつくのです。

きれいな正方形に並べる人、大胆に端がはみ出す人、ピーラーでなく包丁で薄く上手に作る人、それぞれの性格が見えて面白い。はがれやすいシートをそろりと運んで、アイロンをあてて乾かします。糊もつなぎも使わないので、めん棒でしっかり潰してくっつけるのがコツだそうです。

アイロンでも乾かないので、紙に挟んで持ち帰りましたが、やはり少しはがれて、一回り小さくなりました。



すっかり乾燥すると、淡い緑や薄茶の混じった野生的な素敵な紙が完成。少し厚めの薄切りにした方が、しっかりした紙になると思いました。シュロガヤツリは、水気がなくバラバラになってしまい、失敗。カミガヤツリだと上手くいくのでしょうか？

古代エジプト人も、こうやって試行錯誤しながら、パピルス完成させたのだと、想いを馳せました。草花遊びの得意なTさんが、ムクロジのシャボン玉や里芋茎のネックレスなどを教えてくれました。

カフェ・メニュー：姫リンゴのコンポート
(桑原)



里芋ネックレス



ムクロジシャボン玉



ムクロジ